

## 歴史と文化をふまえた震災復興に関する日本とトルコの比較分析

Comparative analysis on earthquake disaster reconstruction between  
Japan and Turkey considering their histories and cultures

吉川 耕司 (YOSHIKAWA Koji)

本研究は、1999年の震災被害を受けたトルコ共和国ドゥズジェ市を対象とした被災と復興に関する学術調査とその分析を、歴史と文化をふまえた領域横断的な見地から行うことで、日本における災害に関わる政策と研究の深化に寄与しようとするものである。具体的には、ドゥズジェ市における震災時および復興過程における政策、被災状況、住民の行動と発想、建築様式や都市形態に関して、既に行った被災直後の調査項目を、復興過程や意識変化・生活状況変化の時系列分析を定量的に行えるように再調査するとともに、地域の歴史の変遷や文化的背景も現地での取り纏めを依頼し、防災・復興制度や住民の行動・意識への歴史・文化的な影響を明らかにしようとしている。これに、日本でのこれまでの研究蓄積を加え、災害に関わる日本とトルコの比較分析の形で取り纏め、歴史と文化をふまえ地域性を重視した防災と復興のあり方を提示することが研究の目的である。

研究活動・作業は、①現地調査により、都市のフィジカルな側面、および住民の被災行動や災害・復興への意識に関する調査結果が得られるので、既存の調査結果と合わせ、トルコの震災復興過程の時系列分析を行う。②文化と歴史に関する調査結果を合わせ、これらが復興政策や住民行動・意識に与えた影響を分析する。③日本の同種の情報との比較分析を行って、両国の違いについて対比的に記述した比較リストを作成する、という方針で進めた。

まず、上記の①に関しては、平成27年4月末と5月末の2回にわたり現地を訪れ、建築物・土地利用・道路（交通）に関する被災と復興の状況に関する調査を行った。建物利用状況の被災前・被災直後・現時点の変化の確認、固定資産台帳より建物復旧年度を調べることによる時空間データ化、新市街地～都心間の幹線道路の交通調査を行うことができた。

さて、②に関して、住民意識・被災行動・生活状況の調査は、アンケート形式により、自宅の形式と被災度、避難・転居を含む被災行動、生活満足度・通勤先・コミュニティの状況を調査し、主に文化的要因の影響を考察するための情報を得ようとするものであったが、残念ながらトルコの政治情勢の変化により、秋に予定していた訪問を行うことができず、未達の結果となった。ただし、記述資料による歴史調査は、19世紀の『収入台帳』に関する文献調査を現地に依頼して行うことができた。

③に関しては、日本での比較対象を、阪神・淡路大震災、中越地震、東日本大震災とし、両国の状況を対比的に記述したうえで、これに文化的・歴史的要因に関する分析を加味して探索的な考察を行うことができた。

以上のように、分野別研究組織としての支援を得ることで、概ね、研究目的を達成し、重要な研究成果をあげることができたことを報告する。